

当日回答できなかった質問と回答一覧①

	ご質問	回答
1	second-handの農業機械を日本から輸入される動きはありますか？	既に本邦から中古農機を輸入し、実証試験と販売を行っている企業様はいらっしゃいます。その企業とは別で、これからケニアを含むアフリカ諸国での日本国産中古農機の輸入販売を検討して現地を訪れた企業様もいらっしゃいます。
2	ケニアで農業機械の組み立て工場を立てていく計画はありますか？	今のところそういった計画はありません。
3	機械化、とは小規模農地に適した機械の導入が主眼という理解でよろしいでしょうか？	<p>ケニアでは、農業機械は賃耕業者のような機械化サービスを提供する業者が所有するのが一般的です（稀に農協が持っている場合もあり）。またアフリカは広大であるため、ケニアの農民の大多数を占める小規模農家でも1ヘクタール以上の土地を有する者が多く（ケニアの定義では小規模農家の耕作面積は0.2～2ヘクタール）、機械化サービス業者が少ない稼働時間なるべく広い土地をカバーする必要があるため、最低でも50馬力以上の農機が好まれます（最もよく見かけるのは80～120馬力）。ただしす<u>水稲</u>稲作が行われている灌漑スキームでは、大型のトラクターは沈んでしまうため、50馬力程のトラクターが好まれます。勿論、個人で農機を所有している農家もありますが、それは大規模農家で、勿論求められる農機は大型のものになります。</p> <p>山間部などで非常に小さい農地で耕作をしている農民の財政的な能力は限定的であるため、現時点では小型のトラクターや耕耘樹などの需要はあまり大きくないと言えます。</p> <p>こう言ったケニアの現状から、日本で言う「小規模農地」に適した機械よりももう少し大きなサイズの機械が求められており、ニーズに沿った政府の機械化政策のフォーカスもそこに当たることになります。</p>

当日回答できなかった質問と回答一覧②

	ご質問	回答
4	コーヒーの隔年結果の問題はありませんか？	ケニアではコーヒーセクターでの隔年結果の問題はそれまで深刻ではありません。農園や樹によって多少は散見されるようですが、隔年結果がコーヒーセクターでの主要課題としてあげられることは無く、それよりも気候変動による大雨の頻発や温暖化などの方がコーヒー生産においては深刻な問題となっています。
5	JICAはアフリカの製造業に対して長年KAIZEN活動を実施してきており、同活動は農業分野にも応用できる部分があると思われませんが、JICAでは今後そういった分野をテーマとした勉強会又は情報交換会を行う予定はありますか（AFICATの枠組みでもそれ以外でも）？ KAIZENを応用することで業務の無駄を省いて農業生産/加工/集荷/販売等の生産性を上げるということが出来ると思いますが、その「無駄取り」の段階で日本企業等の知見や技術を生かすことが出来るとともに、農業セクターがより効率化すると日本企業のアフリカ進出の足掛かりにもなるといった観点からの質問です	現段階では予定はございませんが、AFICATに限らず今後そうした分野での勉強会等を実施する際はAFICATに利用登録頂いている皆様にもアナウンスさせていただきます。